

第3章 面接を成功させよう

面接官は何百人もの応募者を面接するため、面接官の心を動かさない限りあなたはその他大勢の一人となってしまいます。そこで、以下の点に注意しながら、自分の個性を上手にアピールする練習をしましょう。

面接官が心を動かす人

- 仕事に対し明確な価値観がある
- 志望動機が明快
- 明るく前向きな考え方
- 謙虚さと芯の強さがある
- 好奇心や探究心がある

面接官が心を動かさない人

- 表情が暗く、目に輝きがない
- 態度が高慢
- 協調性がない
- 批判的な態度
- 元気の無い人

1 よい印象を与えるポイント

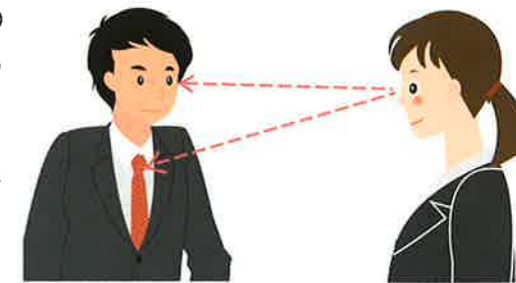
面接ではその答える内容とともに、答えるときの話し方や態度がとても重要です。あなたの答え方の態度、表情などから、仕事の能力、意欲、あなたの人柄などいろいろなことを判断します。面接官により印象を与えることができるように、次のポイントをおさえておきましょう。

- 質問している面接官の方に顔を向けて、きちんと顔をあげて話を聞きましょう。
- なれなれしい言葉づかいを絶対にしてはいけません。礼儀知らずの人だと思われてしまいます。きちんと「です」「ます」をつけましょう。



- 答える前に必ず「はい」と返事をしてから答え始めましょう。ただし、否定する場合は「いいえ」から入ります。
- 答えはできるだけ結論を先に言いましょう。そうすると引き締まった印象になります。ただし、ポツンと結論だけを言うのではなく、理由や説明は必ず付け加えましょう。

- 話のポイントでは相手の目を見ます。目を見て話すのが苦手な人は口元からネクタイの結び目あたりを見るようにしましょう。



- 活発な印象を与えるように、ハキハキと元気よく答えましょう。声が小さすぎるとおどおどした感じになり、逆に大きすぎると協調性がないような印象になります。



- 早口になりすぎないように注意しましょう。早すぎて相手に内容が伝わりにくくなります。逆に遅すぎると仕事が出来ない印象をもたれてしまいます。
- 語尾をはっきり話すと、冷静なイメージが与えられます。
- 質問の意味がわからなかったり、よく聞こえなかった時は、「〇〇ということでしょうか？」と聞き直すか、「恐れ入りますが、もう一度お願い致します。」と素直に言うのもよいでしょう。

- 知らない、答えられない事を聞かれたら、素直に「申し訳ございません。わかりません」と答えましょう。分からないからといって黙っているのはよくありません。しかし、簡単に“分からない”を連発するのもよくありません。質問には真剣によく考えてから答えましょう。
- 答えられなかったことに対していつまでもくよくよと気にせず、気持ちを早く切り替えましょう。



- 答える内容や言葉づかいを間違えて“しまった！”と思ったら、「失礼しました。間違えました。言い直します。」と素直に言葉に出して言い直しましょう。間違えて気まずそうな顔をしたり、下を向いてしまったりするのはよくありません。
- 面接官から「圧迫質問」と思われる質問があった場合は、相手を睨みつけたり、むっとした態度を取らないよう注意しなければなりません。圧迫質問は、あなたが嫌な思いをしたときの表情や応対を見ている場合があります。ユーモアを持って切り抜ければしめたものです。